

○拡大運動は別に存在しているものでなく、拡大そのものがイズム生活理念の内にある。

例えば研鑽はイズム生活の方法としてだけでなく、イズムそのものの理念として位置づけられているのと同じように、拡大も拡げていくという方法面のみを指すのでなく、拡大意欲やその前の拡大意識は会旨「われ、ひとと共に繁栄せん」や全人幸福運動等イズムの基本的理念の内から生じるもので、ヤマギシストとしての必須条件であり、その人は何をやっていてもこの拡大要素はついてまわるものである。

即ちその人の内にあり、その人達が生活する実顕地生活の中に常在する基本観念である。

宗教や政党や諸種の団体等の同志獲得や、自己の勢力拡張のための数の力学や、実用的にやっているものとの異いを明確にしていき、天地に恥じない全人幸福運動の一環としての拡大を積極的に強行しよう。

○この間の一堂に会する実顕地一つの村づくりから観えてきたもの

例えば先月のテーマ ヤマギシの村づくり 2-(5)に、「実顕地と社会の接点をどのような位置づけにするかによって、実顕地の暮らしが豊かに変わってくることが見えてきたようです」とあるように、イズムの拡大運動も、社会との接点をどのように位置づけしていくかによって、単なる同志獲得や、自己の勢力拡張のための数の力学に終わるか否かの分かれ目になりそうです。

○改めて自動解任のこの期に、ヤマギシズム拡大運動の存在意義と任を見直したい。そしてそれが観えるところから、これからのヤマギシズム拡大運動の全ての企画を生みだしていきたい。

◎果てしなく広がる拡大体質の源泉を見い出し涵養しよう

○わがために乞うにあらず（知的革命 私案）

○全人幸福の ためなれば 何をか云わん わが凡て（愛和の誓い）

○全人の幸希うものにゆき詰まりなし

○時代がヤマギシズムを求む ヤマギシズムが時代に応える

○人が人を呼ぶ方式＝人を慕って人が集まる村づくり

○伸びるところへ人は集まってくる

○働きかけよう、その前とその次へ。

点から線へ、線から面へ、面から層へ。尽きることなく永々と。